

50周年記念事業「若手会員の地域調査・研究ワークショップ」

1. 趣旨

コロナ禍を経た DX の推進およびオンラインにおけるコミュニケーションの進展や、移動性の高まり等により、ある地域の中だけに視点を置いて調査・分析をしていくことが難しくなっている。それはすなわち研究者 1 人の力ですべてを解明することの困難にもつながり、研究交流の重要性が高まっているものと考えられる。地域社会学会にはそうした場の提供が一層求められるところである。加えて、複雑化した地域社会の解明には共同研究の一層の発展が望まれるが、そうした場面においても、新しい方法を模索する必要がある。

しかし他方で、若手研究者の減少等の理由により、各大学においてグループで研究を行うようなプロジェクトを進めることが難しくなっており、そうした経験を持てる機会が少なくなってしまう。そこにコロナ禍の影響もあいまって、特に地方大学の大学院生などにおいては、同世代も含めて他の研究者との交流もできていない状況がある。学会の未来に向けた 50 周年事業として、こうした若手研究者の経験の場・交流の場を学会が提供し、地域研究の知見・手法の伝達を行い、学会のさらなる展開に寄与することを目的とする。

2. 方法

- ・若手会員(博士課程在籍者および、博士課程修了または博士号取得 10 年未満の者とする)からの参加を公募し、取り上げたいフィールドや、各自が取り組むテーマを決めて研究を進める。

- ・オンライン・オフラインにて研究会を重ね、現地調査を行い、学会発表や報告書の作成といった成果物を出す。2023～2024 年度に調査・研究を進め、2025 年度の大会での発表を想定する。

- ・若手のなかでも少し経験のある会員（あるいは理事）にファシリテーター役を担ってもらい、研究全体の進行をお願いする。

3. 予算

- ・200 万円

研究会や現地調査への交通費（主に研究費を持たない若手会員を想定）。研究に関わる費用。

4. 参加人数

- ・最大 20 人程度を想定するが、多かった場合でもグループを分けるなどして行い、定員は設けない。最小人数は 5 名としこれ以下の場合には開催しない。

5. スケジュール

2023 年度

5 月 大会にて趣旨説明参加者募集

7 月 第 1 回例会にて引き続き参加者募集

→例会前後に今一度説明&会合 メンバーを固める

8 月 第 1 回研究会 顔合わせ（対面・ハイブリッド） 進行についての方針決定

9 月～12 月 2, 3 回の研究会 地域研究に関する本読み

1, 2 月 テーマ・フィールドの決定 役割分担

3, 4 月 現地訪問

2024 年度

5～7 月 2, 3 回の研究会 各自の調査進捗の報告等

8, 9 月 現地調査

10～12 月 2, 3 回の研究会 調査結果等各自進捗状況の報告等

1～3 月 学会報告についての検討と報告書の作成

(10～1 月 必要であれば現地での追加調査)

2025 年度

5 月 大会の一部会において成果報告

その後は、できれば出版も？

担当理事

小山弘美（関東学院大学） hkoyama@kanto-gakuin.ac.jp

佐藤洋子（高知大学） yokosato@kochi-u.ac.jp

申し込みフォーム

https://docs.google.com/forms/d/1wEqbn9KIU2IfEkbpTZF_-AB_ZSZNzsMuj7QiO6yPgJg/edit

